

## 一般財団法人 有本積善社 第 33 回番組審議会議事概要

- 1 開催年月日：令和元年 11 月 28 日（木）16：00～17：05
- 2 開催場所：京都府舞鶴市字円満寺 158-6 西市民プラザ 2 階 市民活動団体活動室
- 3 委員の出席：  
委員総数：7 名  
出席委員数：5 名  
出席委員の氏名：水嶋純作、今安博和  
楠 崇智、尾関善之、山下美晴（メールコメント含む）  
欠席委員の氏名：山内茂樹、松井恭子、  
放送事業者側出席者名：ジェネラルマネージャー 時岡浩二  
制作チーフ 上田秀篤  
制作スタッフ 奥野あかり

### 4 議題

- (1) 番組審議 2019 年 10 月 27 日（日）9:30～10:49 放送の生中継番組  
舞鶴総合防災訓練（於：海上自衛隊教育隊運動場）

#### (2) 報告事項

- 毎週金曜 20 時から放送している番組「寝ても眠れない日本人へ」のスポンサー企業のイベントとして 11/9（土）に行われたトーク&コンサートを公開収録し、11/15・22（金）に同番組内で放送した。
- FM まいづるの送信所がある五老ヶ岳公園に映画スクリーンを設け、音声は FM 波で放送し、公園を車で訪れた方々に車に乗ったまま映像/音声をお楽しみいただける「ドライブインシアター」を 11/16（土）18 時から実施した。素材は 5 月に実施した「海の京都 吹奏楽フェスタ」。12/1（日）18 時から同様にを行う予定。
- 毎週土曜日 13 時から放送している番組「音楽とりわけ皿」の特別版として、11/17（日）18 時から、1990 年代に活躍した音楽バンド「T-BOLAN」のボーカリスト森友嵐士さんをゲストにお迎えし、同番組初の生放送を行った。この番組に対する反響は大きく、新潟県のファンの方から電話などがあったことから、同生放送の再放送を 11/29（金）の 20:30 から行う予定。また、生放送前に 1 本収録し、同番組のレギュラー枠である 12/28（土）13 時から放送する予定。
- 11/23（土）に丹後王国「食のみやこ」がアンテナショップ「丹後テーブル」を京都市中京区の錦市場にプレオープンするのを記念して、前日の 22 日（金）に同市場から京都三条ラジオカフェ/Radio Mix Kyoto/FM まいづるの同時 3 局ネットで生中継放送した。
- 5/2（木）の「令和改元・FM まいづる開局 3 周年記念 海の京都吹奏楽フェスタ」、9/7・8（土・日）の「第 2 回 同フェスタ」に続き、11/23（土）に FM まいづるのある西市民プラザの文化祭で 1 階ホールにて「第 3 回 同フェスタ」を開催した。この模様を収録した音源は今後、番組内で紹介したり、特別番組として放送していく予定。
- 11/27（水）10 時からの番組内で、国の登録有形文化財である JR 松尾寺駅旧駅舎内にある観光交流施設に開設されたカフェの同日オープンを記念して生中継放送をおこなった。

- 毎年1月1日から1週間程度放送している「ラジオ年賀状」を来年も放送することとし、12月中に舞鶴市内の企業・個人に同年賀状の募集を行う予定。

## 5 議事の概要

- 上記（2）項の報告内容を審議委員に説明。
- 上記（1）項の審議番組に対する意見を審議委員各位から聴取。

## 6 審議内容

### 【審議番組に対する審議委員の主な意見】

審議番組は、2年に1度行われる総合防災訓練を会場から生中継したもの。訓練には海上自衛隊、陸上自衛隊、海上保安庁、消防本部/消防団、舞鶴警察署、福知山河川国道事務所、電力会社、携帯電話会社ほか関係機関が参加し、一般市民にも公開された。メイン会場訓練の実況と下記ゲストへのインタビュー、展示ブース/野外炊事訓練会場/避難所訓練会場からのレポートを交えての放送とした。FMまいづるは訓練全体の進行アナウンスを請け負ったほか、ラジオ生中継で訓練の様態を放送した。

出演：実況中継担当パーソナリティ  
 ゲスト：舞鶴アマチュア無線クラブ

- 企画はとても良い。絶対にやってほしい番組である。構成も盛り沢山であった。
- 難しい訓練の生中継と思うが、実況パーソナリティは落ち着いていて聴きやすかった。
- 会場リポーターのインタビューは全体的によかったが、一部ブツ切れ感がする箇所があった。一言の返答で終わらない質問の仕方や、相手の発言を繰り返して意図の明確化をはかるとよい。
- 臨場感という意味で、もっとリアルタイムに情報が入ってもよかった。例えば、ヘリコプターの機種名だけでなく、大きさや風圧、その場で聞く音についてなど。一人では大変なので、解説者等を横に配置して掛け合いなどで情報と現場の感想をまじえれば臨場感が増すような気がした。現場にいない人にも臨場感が伝わるような工夫を。
- 実況中に、たまに「間」が空いた箇所（訓練会場音のみ）があった。テレビだと映像があるので「間」はもつが、ラジオの場合は長いとリスナーにチャンネルを変えられたり、スイッチを切られてしまうので工夫が必要である。
- 実況パーソナリティの横に、訓練参加団体や展示ブースの代表者を順番に招き、訓練中の当該団体の解説や展示の解説などを合間にしてもらうのもよい。「間」を減らすのに役立つ。展示ブースにリポーターが出かけていって、展示のPRしてもらおうという方法もある。
- 見学に来た市民にFMラジオを貸し出したり、自治会役員などの来賓席や展示ブースにもFMラジオをおいて放送を聴いてもらったらよかった。会場が広いのでラジオ放送を聴くと全体がわかるので。訓練全体進行のアナウンスの中で、FM放送で中継していることを言うともうとよかった。
- 会場にFM放送を流す方法もあるが、訓練進行のアナウンスと被らないよう、主催者と十分な事前打ち合わせが必要であろう。
- 一般市民の見学者にもインタビューするとよかった。
- この訓練の1週間前ぐらいから中継放送を行うということをもっとPRしてもよかった。

## 7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

当審議会が出た意見を局内会議で議論し、次回防災訓練や同様の生中継番組の番組構成に資することとした。（令和元年12月5日）。

8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

(1) 令和元年12月5日 この審議会議事概要を演奏所事務所に備置き、閲覧できるようにした。

(2) 令和元年12月5日 この審議会議事概要をホームページに掲載。

9 その他の参考事項

特になし

以上